

第2章 地域特性を生かした文化的活動によるシティプロモーション

～ 池袋人気にあやかりたい！～

1 はじめに —池袋の昔と今—

「少し危ない街」「汚い街」、かつてはそのような印象をもたれていた街が、池袋である。しかし、ここ数年は、その池袋が「東京の住みたい街」「人気の街」ランキングの上位に位置付けられている。たとえば、不動産・住宅情報サイト「HOME'S」を運営する「株式会社ネクスト」発表の「2013年全国人気の街ランキング」において、池袋が関東エリアランキング第1位を獲得した⁴。他にも多くのランキングで池袋が登場し、かつてもたれていた印象が大きく変化しているのである。

そもそも、なぜ池袋には「危ない」「汚い」という印象があったのであろうか。それは、戦後の闇市や巣鴨プリズンの存在が関係していると言われている。現在の池袋西口公園にあたる場所には大規模な闇市が存在し、そこでは暴力的な事件など日常茶飯事であった⁵。また、東池袋のサンシャイン 60 がそびえる場所には巣鴨プリズン（巣鴨拘置所）があり、その処刑場の存在も暗い影を落としていた。

しかし、それは既に遠い過去のものとなっている。闇市は1962年に、巣鴨プリズンの建物は1971年に姿を消しているため、20代、30代はもちろん、40代の人でさえ、闇市や巣鴨プリズンを実際に見た人はほとんどいないはずである。そのような人々にとって今、池袋は「交通の便が良い」「遊ぶ場所も多い」といった良い印象が先行している⁶。東武百貨店、西武百貨店をはじめ、駅の周辺には数多くのショッピング施設があり、2009年にはヤマダ電機の「日本総本店」が東口に置かれるなど、企業もその集客力に注目している。

特筆すべきは、池袋が秋葉原に次ぐ「オタク文化」の発信地としての地位を築きつつあることであろう。1983年に、アニメ・コミック・ゲーム関連商品を多数販売する「アニメイト」の本店が池袋にオープンし、それをきっかけに「乙女ロード」と呼ばれる女性アニメファン向けの店が多数出店するエリアが形成された。「女性向け」という点で、男性向けの店が多い秋葉原との差別化に成功したのである。さらに、2014年には池袋駅東口に「ニコニコ本社」が置かれ、多くのアニメファンを惹きつけている⁷。海外では“japanimation”

⁴ 「株式会社ネクスト News Release 2014年1月28日 (<http://www.next-group.jp/files/news/140128.pdf>)」参照。

⁵ 石樽督和 (2016)『戦後東京と闇市：新宿・池袋・渋谷の形成過程と都市組織』鹿島出版会

⁶ 「SUUMO 総合7位 池袋 ～住みたい街ランキング2016 関東～ (http://suumo.jp/article/oyakudachi/oyaku/sumai_nyumon/machi/2016kantousougou_ikebukuro/)」参照。

⁷ ただし「ニコニコ本社」とはただの名称であり、いわゆる本社機能が池袋にあるわけではない。

とも呼ばれる日本製アニメーションの人气が益々高まっており、外国人観光客の増加も期待されよう。

2 池袋に住んでみたいけれど・・・

このように、今や若者に人気の街となった池袋ではあるが、交通の要衝でもある池袋に住むには大きな問題がある。それは「家賃の高さ」である。山手線をはじめ、埼京線、湘南新宿ライン、東武東上線、西武池袋線、地下鉄丸ノ内線、地下鉄有楽町線、地下鉄副都心線という8路線が乗り入れる池袋が抜群の利便性を誇るのはいうまでもない。さらに近年の街ランキングの上昇ともなれば、家賃の高騰は免れない。実際、池袋の家賃相場を調べてみると、ワンルームであっても平均85,500円（2016年11月現在）となっており、新卒サラリーマンの月平均の手取り額が16万円前後であることを鑑みると、社会人であっても若い世代には支払いが難しい金額であるといえる⁸。一般に、「月給の3分の1が家賃の目安」といわれていることから、8万円を超える家賃を支払うには24万円前後の月給が必要なのである。

そこで注目されるのが池袋の周辺地域である。たとえば、東武東上線の成増駅を例に挙げると、池袋までは急行あるいは準急電車に乗れば、およそ10分で到着する。それでいて、ワンルームの平均家賃は52,600円（2016年11月現在）と、池袋に比べ3万円以上も安くなっており、これならば新卒サラリーマンでも十分に支払うことが可能であろう⁹。つまり、池袋は無理でもその少し周辺であれば、十分に住むことができるのである。この事実は周辺の自治体にとって、大きなチャンスとなろう。週末の買い物やレジャーは池袋へ出かけるとしても、生活の拠点を自分の自治体に置いてもらえれば、人口は増加し、経済の活性化にも繋がる。池袋の人气が高まった今、周辺地域でもその人気にあやかり、さらに人を呼び込むための戦略を打つことは大きな意味があるといえよう。

以下、東武鉄道株式会社およびハッピーロード大山商店街へのインタビュー結果を中心に、その可能性について論じていこう。

3 鉄道とシティプロモーションへの路線 —東武鉄道へのインタビューを基に—

(1) 線路の力

⁸ 「HOME'S 池袋駅の家賃相場情報 (http://www.homes.co.jp/chintai/tokyo/ikebukuro_00488-st/price/)」参照。

⁹ 「HOME'S 成増駅の家賃相場情報 (http://www.homes.co.jp/chintai/tokyo/narimasu_04754-st/price/)」参照。

鉄道における線路¹⁰とは、狭義には鉄道車両が走行する通路である軌道および路盤、橋梁などの構造物を含めたものを指す。広義にはさらに鉄道車両が走行するために必要な設備を含めたものを指す。鉄道は環境負荷が少なく、大量輸送に向き、定時性や安全性に優れているという特徴を有する。線路が最初に引かれた当時は、先の特徴から鉄道会社各社とも営業キロ数を増やし、その増えた営業キロ数が人を集め、また更なる到達地を目指して営業キロ数を増やしていく時代であった、と鉄道会社の各年表は語る。

しかし、増えた営業キロ数や目的地が、顧客満足度に直結していたのは今は昔の話し。現在の人口減少社会においては、廃線の危機に瀕した線路も少なくなく、鉄道各社生き残りをかけ、沿線の魅力を創り、新しいライフスタイルの提案を行うような方策が必須となっている。たとえば、横浜市の再開発の一例として、東京急行電鉄のたまプラーザ駅および周辺施設などが知られているところであり、また横浜市と東急電鉄が「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定を結んだことも記憶に新しい。沿線のブランド化や活性化、不動産価値の向上、文化活動の積極的な推進などは、公共交通を支える組織が大きく影響するものである。

そこで、近年注目されるエリアである池袋を終着駅に持ち、板橋区の主要公共交通機関の一つである東武鉄道の東武東上線と板橋区および地域との協業の可能性について、他自治体の取り組みと比較して検証する。

(2) 鉄道事業者と各自治体の文化的な取り組み

2016年10月4日および2016年11月22日、シティプロモーション研究班が視察に行った東武鉄道で実施されていた取り組みについて報告する。東武鉄道は、東京都、千葉県、埼玉県、栃木県、群馬県の1都4県に、全203駅、総営業キロが463.3キロで、民間鉄道事業者では全国第2位の営業距離数を誇る。

その中で池袋を起点とし、板橋区を通り埼玉県の中央を西北に伸びている、営業キロ数85.9キロ、46駅（越生線含む）の東武東上線と東上線沿線の各自治体の特徴的な取り組みについて取り上げたい。

① 東上線×豊島区

東上線の始発駅である池袋は、東京芸術劇場のように演劇やコンサートなど様々なイベントを開催する複合的な芸術文化施設から、アニメ・コミック・ゲームといったいわゆる

¹⁰ Wikipedia 線路より
([https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%9A%E8%B7%AF_\(%E9%89%84%E9%81%93\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%9A%E8%B7%AF_(%E9%89%84%E9%81%93)))

サブカルチャーの街として様々な文化を発信する都市である。その文化的な協業をみせるのが池袋駅北口の路上美術館である。過去、決して魅力的とは呼ばれることのなかった池袋駅北口の東武東上線沿線の140メートルに及ぶ壁面に、池袋のアートカルチャー都市としての一面を見せつつ、整備した点が極めて興味深い。豊島区の観光資源の発掘とPR、池袋駅北口の環境美化の促進、セーフコミュニティによる安全・安心なまちづくりの推進を目的として、豊島区・観光協会、東武鉄道および池袋警察署などが連携して整備をした好事例である。

②東武×埼玉県×越生町×跡見学園女子大学×淑徳大学

埼玉県内の鉄道活性化を目的とした「地域鉄道元気アップ協働事業」の一環として実施したもので、埼玉県および越生町による事業補助を利用して、越生町への誘客を図る。

(ア) 東武×跡見学園女子大学×淑徳大学

東上線沿線の大学生と協力して、観光パンフレット「おごせ 街歩き 山歩き」を作成する。

(イ) ストライダーエンジョイカップ東武鉄道越生ステージの開催

お子様に大人気のストライダーエンジョイカップ（ペダルのない自転車レース）を越生町に招致した。本大会は、ご家族全員で参加するため、大会を通じながら、幅広い年齢層の方に越生町の魅力をPRし、誘客を図る。

(ウ) 越生町梅まつりで協業予定

鉄道路線を核とした、いわゆる産学公連携の事業であり、取り組みとしては非常に興味深いものである。これによる影響、つまり鉄道の活性化から転じての地域活性化に繋げようとする試みについては注視すべきであろう。

③東上線×川越市

東武東上線の重要拠点と位置付けられている川越市は、江戸時代に城下町として栄え「小江戸川越」と呼ばれるようになり、国から歴史都市に認定されている。時の鐘や川越城本丸御殿など、観光資源が豊富で、東武東上線100周年記念では観光協会などの後援のもと「蔵のまち 川越コンサート」と題して、蔵を会場にしてコンサートを開催するなど、文化的な活動でのやり取りも非常に多い。

(3) 板橋区の取り組みの現状と課題

各自自治体も同様の取り組みをしているため、板橋区独自の取り組みとはいえないが、東武鉄道との協力事業として、自殺防止・事故防止キャンペーンが挙げられる。このキャン

ペーンにより、板橋区も東武鉄道もイメージアップに繋がればと考えている。

東武東上線のイメージアップ・ブランド力の強化は「利用客数を増やしたい」東武鉄道と、「愛着・誇りの向上を図ることで、転入者の定住化を促すことを掲げる」板橋区の共通の課題といえる。しかしながら、先に検証してきた他自治体と比較すると、板橋区と東武鉄道との協力関係が希薄であるといわざるを得ない。ましてや東武鉄道と板橋区は、今後東上線の立体交差化に取り組む必要があり、それに伴い東武鉄道との積極的な連携が必要となってくる。

地域の文化を生み出し、育てるまちづくりというのは、発信者の利益にすぐには還元されにくい、公共性の高い組織が担い手になりやすいものであり、地方自治体や公共交通、研究教育機関がそこにかかわることが多いと考えられる。その担い手となるべき団体同士が手を組み知恵を出し合うことで、多様な文化が生まれる土台ができるはずであり、鉄道事業者との連携協力は文化を生む土台に成り得るものである。

4 板橋区内の東上線沿線の街 ―ハッピーロード大山商店街聞き取り調査を通して―

それでは、東上線沿線の街は現在どのような状況に置かれているのだろうか。ここでは、その一例として、「板橋区の顔」とされる大山駅周辺についてみていきたい。¹¹

大山駅は、1931年に板橋区大山町に設置され、現在は駅周辺をハッピーロード大山商店街と遊座大山商店街という2つの商店街に囲まれている。1日の平均乗降人員は、50,539人¹²と板橋区内の東上線の駅では4番目である。板橋区大山まちづくり総合計画において、鉄道立体化や都市計画道路補助26号線の整備などが計画され、今後も周辺環境の変化がみられる駅である。今回は、大山駅周辺の状況と商店街における文化的取り組みについて、大山駅南口に直結するハッピーロード大山商店街の、振興組合事務局長の小谷裕二氏と事業部長の小原義義氏にお話を伺った。以下にその概要を示す。

(1) 大山駅周辺状況と商店街

ハッピーロード大山商店街振興組合(以下「振興組合」)では、毎年、通行量とアンケート調査を行っている。都市計画道路補助26号線(以下「26号線」)の整備に伴い、商店街1km圏内での人口は増加傾向にあり、乗降人員も増加している¹³。全国と比較しても20代

¹¹ 2014年3月板橋区策定「板橋区大山まちづくり総合計画」

¹² 東武鉄道ホームページ(http://www.tobu.co.jp/corporation/rail/station_info/)参照

¹³ 板橋区中小企業診断士協会「ハッピーロード大山商店街通行量・アンケート調査」

後半から 40 代後半の人口割合が高く、ファミリー層も多い¹⁴。地価も徐々に上昇しているように思われる。

ハッピーロード大山商店街(以下「商店街」)は他商店街との関係も良好で、商店街内や周辺のスーパーとも共存関係にある。振興組合の年間の事業予算は、約 2 億 2 千万円で、一部の事業経費は、板橋区から 3 分の 2 の補助金が出ているが、3 分の 1 は振興組合が負担している。振興組合には、営業店舗 257 店舗のうち 209 店舗が加盟し、各店舗は月平均 5 万円前後の賦課金を拠出している。賦課金が高いため、加入が困難な店舗も少なくない。

(2) 商店街の文化的取り組み

商店街では様々な文化的イベントを、単発型と日常継続型に分けて行っている。日常継続型の「とれたて村」事業においては、参加 17 市町村から生鮮品や加工品の仕入れを行い、それらの参加市町村のアンテナショップとして機能している。年間 50～60 近くの自治体から視察や研修の申し入れがあり、反響も大きい。また、公認プロレスラーやアイドル等とのイベントを定期的に行い、来客者との繋がりを作る工夫をしている。最近は新たなストリートミュージシャンにもライブの開催場所を提供するようになった。

また、一昨年から他商店街と共同で「東上線バル」というイベントを行っている。上板橋と中板橋の商店街で発案され、500 円×6 枚のチケットが参加各商店街の居酒屋等で利用できる仕組みとなっている。これまでは開催地の商店街ごとにチラシを作成してきたが、本年 2 月からは 1 冊の小冊子にまとめ、毎年 2 月、7 月に定期的開催する予定である。また、三田線沿線でも開催されると聞いている。次回開催から東上線の駅舎に冊子を置いて貰えないか掛け合ってみる予定だが、今のところ鉄道会社との連携はない。

商店街の情報は、HP や商店街の情報モニタ TV、YouTube で観ることができる。ハッピーロード大山 TV (インターネット TV)、Facebook 等でも発信している。2015 年から TV 局からの取材があるときには必ず商店街名のクレジットを入れるように依頼をしている。徐々にではあるが、確実に知名度が上がってきているように感じられる。

(3) 鉄道会社や行政との協働について

とれたて村との取引関係で千葉県の「いすみ鉄道」と交流ができ、2017 年 1 月にレストラン列車で出しているメニューを商店街の「SUKUSUKU カフェ&キッズ」で食べられるイベントを開催する。東武鉄道とは数年前に単発型のウォーキングイベントを行ったが、その

¹⁴ 脚注 13 と同じ

後商店街側からは積極的な働きかけは行っていない。鉄道会社と上手く連携を図るにはパイ役が必要だと感じていて、特に東武鉄道とは板橋区が間に入って貰えると有難い。

地方の自治体では、行政が商店街の活動に積極的にかかわっていて、図書館等に商店街のフリーペーパーのコーナーを設けている自治体もある。地方都市は、人口減少に対する危機感が強く、商店街振興に対する力の入れ方に板橋区との温度差を感じる。補助金に関しても行政と民間で予算についての考え方が異なることもあり、出るのが遅いと感じている。商店街が必要にかられ、先行して行った事業については、予算が足りていると判断され、補助金の対象外とされるなどのすれ違いがある。

(4) 今後の課題と展望

商店街周辺の人口は、現時点では増加しているが、東京オリンピックを境に減少していくことが目に見えている。商店街が文化的イベントに力を入れているのは、その危機感の表れである。各店舗の士気を高めることで、商店街や街そのものの価値を高めていきたい。そのためにも、各商店街でホスト役が必要だと感じている。

商店街のキャッチコピーは「一生づきあいします」。大山を「感幸地」、幸せを感じる地にして、すべての世代の多くの人に来て貰えるようにしていきたい。

以上が聞き取り調査の概要である。

板橋区の商店街は、全国的に見ても予算の規模が大きく、先進的で活気があり、シティプロモーション戦略の一つとして挙げられるほどの魅力を有している。都市整備に伴って街は暮らしやすく発展していくが、利便性だけでは地域に愛着を抱くことは難しい。地域に定着し、そこで家庭を作っていくには愛着の形成が必要である。板橋区の商店街は、様々な文化的イベントを行い、人々と地域との繋がり、すなわちコミュニティの形成に貢献している。商店街は、板橋区の文化の発信装置であり、地域への愛着形成の源になり得るものである。

地域の魅力を発信するために、行政には地域と関連する部署ごとのかかわりを持つだけでなく、まちづくり全体を見通して地域と密な情報交換、連携ができる仕組みを構築していくことが求められている。地域の現状を知り、必要とされる資源と資源を繋いでいくことで、人々と地域、地域と行政とのかかわりを深め、各々のすれ違いを解消していく工夫が必要である。

人口減少社会における生産年齢人口の減少に伴い、今後は板橋区民の定着施策だけに留

まらず、他地域からの人口流入を促す取り組み、すなわち『東京で一番住みたい街「いたばし」』になるための仕組みづくりが大切である。板橋区の魅力を区外に発信するには、板橋区と他区市を繋ぐ鉄道会社の存在は大きい。鉄道会社と各商店街を繋ぐパイプ役を板橋区が担うことは、シティプロモーション活動の発展に大きく寄与できる施策の一つといえるのではないだろうか。

5 予算からみる文化のまち板橋

文化といっても様々であるが、その多くは誰かが一人で占有することが難しく、その効果を同時に多くの人が得ても減じられることがない。このような財は、経済学において公共財と呼ばれ、市場において過小供給されてしまうことから、どうしても政府がその生産を担う必要がある。そこで地方政府の予算を通して、文化に対する投資が地域ごとに異なるのかみてみたい。

板橋区では、2015年10月に区全体の将来像として「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」と定めている。この新しい板橋区基本構想は、2016年度から約10年を経て実現していく「あるべき姿」であるとしている。板橋区が文化（およびスポーツ）をどのように輝かせるのかについて、板橋区基本構想を覗いてみると、中山道の宿場町といった伝統を大切にしつつ、多様な文化芸術活動が活発化され、もてなしの心で他国との違いを認め共存し、スポーツを通じて健康に豊かに暮らすと目標づけられている。

ここでは、「文化のかがやくまち“板橋”」という区の構想について、どのような行政および政策を掲げて実現を目指しているのか、財政面から検証したい。とはいえ、2016年より始める10年計画の初年度であるゆえ検証できることは限定されることを断っておきたい。

板橋区の2016年度区民文化総務費の予算は2,489,790千円である。昨年度にあたる2015年度の区民文化総務費の予算は2,304,679千円であったことから、約8%増加している。ところでこの中には、掲示板などコミュニティを促進する経費も含まれること、加えて文化に係る予算は、複数の部署にまたがっており、産業振興・観光振興費の中にも文化に関連するものが存在する。そこで、計上されている経費の内訳をみながら、以下のように整理してみる。

(公財)板橋区文化・国際交流財団運営助成として57,382千円計上されている。隣接事業である文化事業運営、国際交流事業運営、モンゴル国「文化・教育交流協定」20周年記念事業などと合計すると82,322千円となる。この板橋区文化・国際交流財団は、文化事業として区民参加型の講座や演奏会のみならず、音楽、落語や演劇の鑑賞会などを行っている。

同様に国際交流事業として、日本語教室や友好都市との交流事業なども行っている。板橋区とモンゴル国との交流は、1990年代に区内の工場で作った筆記用具を贈ったことから始まるという比較的新しいものだが、その後都内に住むモンゴル人の数が板橋区が一番であると報じられている¹⁵。板橋区では上記以外にも区内の文化的な活動に行政が積極的にかかわっている。毎年8月上旬に開催される「いたばし花火大会」がある。この花火大会に対して区が拠出する予算額は42,498千円である。板橋区と戸田市との境を流れる荒川河川敷に12,000発の花火が打ち上がる夏の風物詩として、2016年度で57回目を数えている。都内では2万発の隅田川花火大会が有名だが、近隣の北区が8,000発弱という規模からすれば、板橋の花火は地域最多級といえるだろう。毎年10月中旬に開催される「板橋区民まつり」の予算規模は20,868千円である。区民まつりは、地元で活躍する団体や小学生を巻き込みながら踊りやパレードなどが2日間にわたり披露されるイベントで、まさに行政が主導する文化の祭典といえる。

板橋区は文化芸術施設も数多く運営している。図書館やいたばしポローニャ子ども絵本館などの図書館管理運営経費として、1,236,537千円があげられる。絵本館は、区がイタリア・ポローニャとの友好交流都市協定を結んでいることから本の寄贈を受け、ポローニャを含めた世界の絵本を収蔵しているという、珍しい絵本に特化した図書館である。

板橋区には、都内最初の区立美術館がある。区立美術館の管理運営経費として60,490千円が計上されている。赤塚にあるこの美術館には日本画、日本の洋画など多くの作品が収蔵されている。この区立美術館で1981年にポローニャ国際絵本原画展が開催されたのをきっかけにポローニャとの親交が始まっている。板橋区には、旧石器時代の遺跡から戦国を経て、江戸時代の村、太平洋戦争まで板橋が経験した歴史の史料が残る、郷土資料館がある。この展示や維持管理に63,050千円を計上している。さらに地元の芸能を守り伝えるために、会議室や稽古場を提供する郷土芸能伝承館があり、この管理運営費として16,015千円が使われている。プラネタリウムのある科学館が区内にあり、ときにはサイエンスショーや星空の下でのプラネタリウムコンサートが行われたりする。この科学館の運営経費として179,943千円が予算に組み入れられている。

さて、ここで比較のために豊島区についても2016年度予算をみていく。豊島区は、2016年度の文化総務費1,025,282千円を計上しており、昨年よりも132,118千円(約15%)増額している。板橋区同様に豊島区でも文化関連項目を拾い上げてみると、豊島区新ホール

¹⁵ ダイヤモンドHP(2010)「ダイヤモンドオンライン データで分かる区の実力」
<http://diamond.jp/category/s-tokyo> 2016年12月閲覧

整備事業経費に 57,384 千円、芸術文化資料館開設準備事業経費に 31,995 千円、としま未来文化財団運営助成経費 164,559 千円などが比較的大きな金額である。としま未来文化財団は、区の文化施設の管理やコンサートなど文化芸術イベントを行う公益財団法人である。それ以外にも、金額は大きくないものの、トキワ荘通りや南長崎マンガランドなど漫画関係予算が 38,192 千円、庁舎まるごとミュージアム、豊島の森夕涼みコンサート、国際舞台芸術の祭典であるフェスティバルトーキョーの開催経費、西口まちかど回遊美術館事業経費など事業推進費の項目が多い。

2016 年度の板橋区における文化イベントの運営、推進および施設の維持管理に関する費用は、合計で 2,394,054 千円である。隣の豊島区についても同じように積み上げていくと、2016 年度では 2,030,742 千円となる。ただし、ここでは両区とも職員人件費等を按分することなく、完全に除外した金額という同じ条件で算出している。予算規模は、区によって異なることから、比較しやすいよう一人当たりを算出すると、板橋区は約 4,295 円となる¹⁶。歳出全体に占める割合は、約 1.18 パーセントとなる¹⁷。豊島区について同じ計算をすると、一人当たり約 7,323 円、約 1.67 パーセントとなる¹⁸。予算全体の比較のために板橋区の予算総額を 1 としたとき、豊島区は 0.60 となる¹⁹。板橋区の 2,394,054 千円の 6 割を計算すると 1,436,432.4 円となることから、豊島区の 2,030,742 千円は板橋区よりも文化に対する投資の割合が大きいということになる。ただし、豊島区については、先にあるように新ホール整備や芸術文化資料館開設準備が続いていることに留意しなければならない。さらに気になるのが、その中身で板橋区は 2,394,054 千円の 85.3%が文化施設に関連する予算となっていることだ。豊島区では文化施設に関連する予算の割合が 76.9%である。

板橋区の方は施設の管理運営の割合が比較的多く、豊島区に比べると推進事業や助成経費の割合がやや少ない。また、2 区を比較すると豊島区は文化に関連した投資を多く行っていることが分かる。「文化のかがやくまち“板橋”」となるためには予算額の多寡で決まるわけではないが、文化施設維持を中心とする予算構成の板橋区に対して、様々な事業を推進する豊島区が掲げる豊島区国際アート・カルチャー都市構想の重点予算配分には力強いものを感じざるを得ない。

¹⁶ 平成 28 年 11 月時点で板橋区が発表する同区の人口は 557,382 人である。

¹⁷ 平成 28 年度板橋区歳出合計は 202,570,000 千円である。

¹⁸ 平成 28 年度豊島区歳出合計は 121,808 百万円である。

¹⁹ 平成 28 年度豊島区の一般会計予算総額は 121,808 百万円である。